琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.107
2023. October

発行者　琉球病院事務部長
大城　英作

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

無断離院訓練について

医療安全管理係長　**宮城　尚子**

当院では、医療安全の取組みのひとつに無断離院訓練を毎年開催しています。
①職員への無断離院発生時の各々の役割や連携体制についての理解
②離院発生時に患者さんを安全に保護できることを目的としています。

今年は、医療安全部会が中心となり８月24日に訓練を行いました。訓練では、模擬患者を設定し、離院発生の一報を受けた病棟看護師長がマニュアルに沿って報告を行い、捜索本部の立ち上げから各部署応援者による捜索班の実践までを行うことができました。

精神症状のある患者さんにとって「離院」は自殺や自傷他害、窃盗、交通事故など重大事故に繋がる可能性が高いです。無断離院を防止するには、職員間で患者情報を密に交換し、キャッチした情報を共有し、リスク感性を高めていくことが重要と考えています。

これからも患者さんの生命の安全を守るために、医療安全研修や訓練を積極的に行ない、安全文化の醸成に努めていきたいと思います。

捜索本部（情報収集）の様子

訓練後の振り返り

地域医療連携室だより

精神保健福祉士　長根山　由梨

当院には１～15歳を対象とした子ども診療科があります。子ども達が見せる様々な行動や、心と育ちに関する気になること・心配なことについて、医師をはじめ、心理士、精神保健福祉士がチームとなり、子どもひとりひとりの状況に合わせて、ご家族や関係機関と一緒に考えていきます。ご家族はもちろん、学校の先生や役所、計画相談員などお子さんと関わりのある多くの機関からのご相談を受けています。現在、受診まで数か月の待機期間が発生する状況ではありますが、まずはお電話で地域連携室にご相談ください。

問い合わせ先：地域医療連携室

院　長

福治（ふくじ）　康秀（やすひで）

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353床

・精神（一般精神・クロザピン専門・精神科救急）	151床
・アルコール依存症	44床
・児童思春期ユニット	4床
・重症心身障がい	90床
・医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩３分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け５分

お問い合わせ

時間	8:30 ～ 17:15（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL	098-968-2133（代）
内線	231・234

地域医療連携室（直通）

TEL	098-968-3550
FAX	098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では 2010 年 2 月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ 395 例になりました。2023 年 8 月の CLZ 導入数は 3 例で、いずれも他の医療機関に入院中の紹介患者さんでした。CLZ 治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に 3 回の CLZ 専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院での CLZ 治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (https://drs - net.novartis.co.jp/dr/product/clozaril/guide/) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

こども心療科

心理療法士　我喜屋　良行

10 月になり、こども心療科では一足早くハロウィンのお化けたちが登場して、病院に来てくれた子どもたちをお出迎えしてくれています。

病院に行くことは、子どもたちにとっては「どんなことするんだろう」という不安も大きいと思います。こども心療科では、診察の中で子どもたちの不安を和らげるように配慮するのはもちろんのこと、受付スタッフのみんなも季節ごとの飾りつけをしたり、待合室をキレイにしたりして、来てくれた子どもたちが少しでも安心できるような雰囲気作りをしています。

来院される機会があれば、季節の変化を感じてみてください。

重症心身障害児（者）病棟紹介

西Ⅱ病棟師長　玉城　由美恵

当院は、昭和 51 年から重症心身障害児（者）病棟として運営しています。自傷や他害、こだわりなどといった強度行動障害をもつ利用者だけではなく、経管栄養など身体管理が必要な利用者が入所されています。年齢層は、10 代から 70 代まで幅広く、療育活動や摂食機能療法、身体リハビリテーションなどを多職種と連携して行っています。また、医師や看護師だけではなく、療養介助専門員（介助員）、児童指導員、保育士、理学療法士、言語聴覚士などのチームスタッフで治療を行っています。日本重症心身障害福祉協会認定看護師や呼吸療法士を中心とした、重症心身障害児（者）にとって必要な専門的知識や技術でケアをしています。これからも、利用者ひとりひとりがその人らしく療養生活をおくれるよう、受け持ち看護師を中心に利用者の特性を理解し、個々にあった支援となるよう努めていきたいと思います。

外来部門

外来師長　伊敷　史子

当院外来部門において、ギャンブル依存症や薬物依存症の診察治療も行っております。当院には専門的な治療が行える医師、専門的な知識をもつスタッフもおり、ギャンブル依存症や薬物依存症に対して専門的な治療が実施できます。また、患者さんに寄り添い、話を聞いた上で本人にあった治療を行っております。また、医師をはじめ看護師、心理士、作業療法士、精神保健福祉士といった多職種が治療に関わることで、患者さんがその人らしさを取り戻していく手助けを行っております。また、ご家族の方で悩まずいつでも外来・地域連携へ相談してください。

重症心身障がい医療

療育指導室長　金城　安樹

蒸し暑く強烈な日差しが多かった9月でした。全国的にも平年より暑い夏であったようです。西Ⅰ.Ⅱ病棟では利用者の日中活動として3階デッキのスペースで水遊びを楽しんで頂きました。水遊びを好まれる利用者は多く、水をかぶったり、仰向けでプールの水に浸かったり、シャワーで遊んだりと各利用者に反応がみられました。季節に応じた行事や院外活動を利用者の皆さんに楽しんでいけるように今後も計画していきたいと思います。